

事業所における自己評価（公表）

公表：令和 3年 3月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のスペースとしては適切であるが、活動場面・内容によって工夫が必要。</li> <li>・利用日によっては、給食時に密になるので工夫が必要と感じる。</li> <li>・現状として、コロナ対策もあるので、日によってもう少しスペースが広いとよいと思うときがある。</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切である	11	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は職員数が増えたということで、1人1人をよく見ることができた。</li> <li>・その日の子どもの利用人数に応じてグループ療育時の職員を配置することで適切にできている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日によっては過剰である。</li> <li>・日によって足りないのではと感じるときがある。</li> </ul>
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	1	利用人数に合わせて、空間を広くするなどしている（給食時）	・幼児用洋式便器がもう少し必要だと思う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	12		事柄により「広く」の定義が異なるが、参画している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		日頃、保護者の意向が把握できるように心がけている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	3		・第三者の評価を知り、改善に反映したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11			
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12			・アセスメント内容や分析、反映に個人差があるため、個別支援会議等で学ぶ機会としたい。

適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	1		・発達段階や行動特性、行動の意味などをしっかり把握する必要があると痛感する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12			・より具体的に設定できるよう個別支援会議の質や職員の資質の向上が図れるよう会議のあり方を工夫する必要がある。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12			・計画内容と日々の支援内容の振り返りや確認をすべきと感じる。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	12			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	12			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12			・報告だけではなく、次回につながる支援の検討も必要である。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	12			・とても丁寧にモニタリングが行われており、支援の手がかりとなっている。 ・計画は6か月間と長い期間になるので、定期的にねらいや支援方法を確認するようにしている。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12				
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12				
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12			支援担当者会議の必要性和重要性を感じる。	

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	12				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12			・年々充実してきており、一つひとつの積み重ねで他機関からも理解を得ることができていると感じる。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12			・年々充実してきており、一つひとつの積み重ねで他機関からも理解を得ることができていると感じる。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11			・専門職にお子さんの様子を動画で見てもらうなど工夫し、助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	10		・あまり必要性を感じていない	・日々のお子さんは難しいのが現状。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	1			・会議の有無を把握していない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12				
保護者	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	4			・銘打っていないが、広義の意味では母子療育が担っていると思う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12				・定期的ではなく、随時である。特に保護者から相談があった場合は、後日確認の意味で声かけをしたり、必要に応じて話をしている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	1			・保護者会など積極的な支援の必要性は感じていない。 ・日々の療育の中で保護者同士が交流しやすい雰囲気になるよう声をかけきっかけづくりをこころがけている。

口への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12		・対応の体制については、報告・連絡を迅速にし、丁寧に行うよう心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12			
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	12			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	12			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策もあり、行事と地域交流は難しい</li> <li>・コロナウイルスの感染対策で今年度は行えていない。</li> <li>・コロナ禍の状況で難しくなっている。</li> <li>・今年度はコロナ禍ということもあり、主任児童委員の方とも連携は行わなかった。</li> <li>・今年は、コロナで難しかった。</li> </ul>
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	12			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12			小さなヒヤリも報告しやすい雰囲気をつなげていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	2		かわりの中で、この対応は虐待や拘束にならないか問うよう心がけている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・”虐待はない”との認識で記載はしていないが、虐待の定義は職員間で確認する必要があると思う。</li> <li>・自傷等のあるお子さんの保護者と対応について話をしているが、支援計画に記載してはいない。</li> </ul>

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です